

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千十八號

日出午前一時五十分
月入午後二十七分

時事新報社大坂出張所の移轉
時事新報社大坂出張所は元と大坂高麗橋通に設置しよりたれども配達の便宜神速を圖りて本年三月梅田停車場側又移轉したるに爾後大坂府下は勿論京畿中國九州四國に掛けて本紙の發賣高は日と共に増加し關西地方の通信并に賣捌方も大に手と廣げざる可からざる事となり隨て從來の出張所家屋にては手狭と感するに至りたれば今度更に是迄の處より南の方一丁程の東側即ち大坂西成郡曾根崎村第二百五十番地に移轉し通信、廣告受托、賣捌方等一切の事務を擴張せり。

時事新報廣告料前金
月二十六號ノ過後料ノ申送
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ過送スルモノニ限り右定價ノ外ニ一箇
月前金大圓
一枚三錢○前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
○一年前金六圓
送料廣告料ハ左ノ如シ

自十一行至卅行	一五 行號 廿三 字結
九	一 日 限付
錢	二 六日迄 以上
七	八

日事新志

將軍の人と爲りは前節に記しるが如くにして其主義
策略^{さくりょく}に見る可^べどなしと雖^ま今日迄の舉動^{きよどう}よりして政
治上に及ぼしる所の影響^{えいきょう}は決して少からず即ち將軍
其頭角^{かとうかく}と見よんて以來一方の共和黨^{かわいとう}は立^{たつ}つもれ合^あう

黨王政黨は本心より實に將軍を奉ずるに非ざれ其之を利して或はボナバルトの血統を立て或はオルレアン家の回復を圖らんと又又シフオールを始め激進派は

そる次第なれば佛國の現政府は將軍の友敵如何を察するにあらざれば政府黨は旗色をトするよ苦しむの事情ある可し又憲法の問題は將軍が其政事と急務なりと主

強を立てるにも關らず多數の議員は期する必要なし」として其動議を破りたり或は當時下院の多數は將軍に賛成したりとしても上院の尙を力を極め反対するに相違ないからなんれば憲法改正は行はるゝ望は少しだと云はざる

的あたに非ずとして其際に上院が右の如く獨り之に反対するを以ては其結果は議院の解散と爲る可し斯くて更に新議員を徵すに於ては反動の結果として王政帝政過激派

事若し爰に至らば佛國の政治社會は全く其局面を變するゝ疑なけれ其爰に局外れ見を以てするに議院解散の一事が今日に於て概して留なきが如し且つ帝政王政過激三黨の助ありとするも其助は真心實意より出で

○磐梯山噴火調査概略 福島縣耶麻郡磐梯山噴火の景況と實地調査したる農商務省地質局長和田維四郎は去る七日農商務省に於て該山破裂の景況及其原因徵候等のことにつき委曲説明を爲せしが今其要領を掲ぐれば即ち左の如し(農商務省)

官
部

七

磐梯山地形 本州ヲ横断スル富士帶ト稱スル火山脈以北即ア本州北東部ノ東邊へ稍々弓形ヲ爲シ北方ニ趨走スルアル武隈及北上山系ハ其内邊ニ同ク弓形ヲ畫シタル地殻縫裂線ニ沿ヒ裂縫ヨリ逃出シタル火山脈ト駢趨ス而シテ磐梯山ハ其一群嶺ナリ此火山脈ハ南西シテ富士帶ト白山、浅間火山脈ト交切シタル所ニ接合ス

ノ外ニ淡綠色ヲ帶
石其中ニ散點ス之
暗綠色コシテ緻密
々玻璃質ノ石基ハ
其質相異ナルモノ
ヘ其境界ノ分明ナ

磐梯山ベ岩代國耶麻郡猪苗代湖ノ西北一聳峙スル群
峰ニレテ其最モ高キヘ大磐梯ナリ地理局測量ニ據レ
ハ海面ヲ拔クコト千八百四十メートルナリ之ニ次ク
ハ小磐梯トス又大磐梯ノ北々東ニ對立シ小磐梯ノ東
ニ連續スルチ櫛ヶ峰ト云ヒ西北ニ稍高ク其西ニ連續
スルチ湯桁山ト云フ又西北ニ延ヒテ丸山猫俣嶽チ爲
レ尚北七越レテ合魚諸山ニ連亘ス而テ大磐梯ヘ碧

梯群峰ノ西南ニ向ヒ稍倒扇形ヲ成シテ岬立ス其麓ノ斜度ハ緩ニシテ七度乃至二十度ナリ頂ニ至リ漸次急ニレテ二十七度乃至三十二度トナリ頂ノ北東邊ハ最モ急ニシナ殆ント断崖ヲ爲シ沼ノ平ニ斜向ス沼ノ平ヘ山頂ノ凹處ニ在リテ其北東邊ハ小磐梯及櫛ヶ峰ノ断崖周繞レ僅ニ枇杷澤ニ開口ス是ニ於テ其碧噴火口タルベキナ知ルニ足ル

山群峰中三箇ノ噴火口舊址ヲ検定シタリ
噴火ノ徵候 本年ノ積雪ハ例年ニ較フレハ稍深カリ
シニ其融解ハ却リテ早カリシ噴火數日前ヨリ噴火口
ノ一部ナル上ノ湯滅水シ水蒸氣噴出ハ反リテ增シ其
勢稍猛烈トナリ隨テ其噴氣孔ノ數ヲ増加シ又中ノ湯
ノ溫度ハ例日ニ較フレハ少シク昇リタリト云ヒ又數

日前ヨリ山巣時々鳴動レ山谷ニ棲居シタル鳥獸何ト
ナク騒擾シ數多ノ蛇ヘ田野ニ匍出シダリト云ヒ噴火
二日前降雨アリシニ闇セス噴火ノ前日ハ沼ノ平湖ヘ
例日ヨリモ減水セリト云フ

柱狀チ爲シ懸々昇騰レ大磐梯絶頂チ超越スルコト殆
ント其二分一位ニ達セレトキ黒烟ハ四方ニ舞キ瞬間
ニシテ中天ヲ掩ヒ熱シタル火山灰チ散布セリト
噴火口爆裂ノタメ小磐梯山嶺及湯桁山ノ北東部ヘ悉
皆漬裂崩壊シ其北部ノ大深澤及中ノ澤ニ向ヒテ斜下
スルニ裂縫チ現出ス小磐梯チ崩壊シ中ノ澤噴火口チ

現出スルヤ其半壁ハ櫛ヶ峰ヨリ湯桁山ニ連亘レタル
断崖ニシテ西壁ハ殆ト百五十メートルノ絶壁ナリ南
壁ヲ成レタル檍ヶ峰ハ噴火口底ヨリ殆ト六百メート
ルノ高サチ以テ峙立ス大深澤ノ上部ニ上ノ湯及中ノ
湯ノ噴火口アリ或ハ此大深澤及中ノ澤兩噴火口ヲ通
レナ一大噴火口ト見做スモノモアフンノ以上ヘ雲霧比

磐梯山ノ爆裂スルヤ其噴火口及裂縫ヨリ泥灰ヲ押流
シ崩壊飛散シタル岩塊ノ堆積シ溪谷ノ舊形ヲ一變ス
其最モ甚レキナ東北震ナリトス元來火山爆裂ニ必要
部ニシテ其峰南部ヨリ噴出シタルモノハ沼ノ平及日
蔭ノ噴火口是ナ、

ナルハ水蒸氣ナルカ水煙ノ昇騰シ巻相四近ヲ拂フヤ
水蒸氣ハ冷風ニ遇ヒテ忽ニ凝結レ空中ニ散亂シタル
灰ヲ混ヘ泥雨トナリ降リシヘ爆裂ノ後殆ト三分半チ
過キタリト云フ

水煙ノ昇騰シタルトキ噴火口部ノ岩塊ハ非常ナル速
力ヲ以テ飛散シタレハ幾何ノ空處ヲ現出シ爲ニ暴風

チ生レ家屋樹木ヲ仆セシヤモ知ルヘカラサレトモ是
ヘ地理局委細ノ報告一依リテ判然スルノ如也山近傍
近傍ニ在リテ火山灰ノ厚積セシヘ其東南部ナリ即チ
澁谷村ニ於テハ曲尺六寸内外トス而シテ當日一般ノ
風向ヘ北西々ニシテ磐梯山ヨリ七里有餘ヲ隔テタル
安達郡本宮村地方ニ灰ノ下リシヘ午前八時頃ナリシ

ト又當日噴火少シク静リテ磐梯四近ノ朦朧タル雲烟漸ク晴レ初メテ青天ヲ見レハ午前九時三十分頃ナリ磐梯山構造岩石 磐梯山ヲ構造スル岩石ハ輝石安山岩ニレテ二種別アリ 一ハ其下部ヲ構造スムモノニテ其岩質ハ細粒赤褐色或ハ赤綠色ヲ呈レ鑿石主成分